

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 3 高句麗	隋の煬帝は、大運河の建設などの大土木事業を行うとともに、朝鮮半島の高句麗に対して3回にわたる遠征を行った。しかし、いずれも失敗に終わり、多大な軍事費と労役負担に苦しんだ民衆や兵士の間で反乱が頻発した。これが隋の滅亡を早める直接的な原因となった。
問2	答え 4 シャルル7世	百年戦争中にジャンヌ＝ダルクの支援を得て戴冠したフランス国王はシャルル7世である。彼は1439年の王令により、諸侯が勝手に兵を募ることや課税することを禁止し、国王直属の常備軍を創設して王権の強化と中央集権化を推し進めた。なお、初めて三部会を招集したのは14世紀初頭のフィリップ4世である。
問3	答え 4 ジャムチ	モンゴル帝国は、広大な領土を統治し東西交易を活性化させるため、主要幹線道路に一定間隔で駅(チ)を置き、公用の使者に馬や食料、宿泊施設を提供する駅伝制(ジャムチ)を整備した。しかし、14世紀に入ると、気候の寒冷化やペスト(黒死病)の流行、帝国の分裂などの混乱(14世紀の危機)によってこの制度は機能不全に陥り、ユーラシア規模の交通網は分断されることとなった。
問4	答え 4 ササン朝ペルシア	ササン朝ペルシアは、アルダシール1世がパルティアを倒して建国した。シャープール1世の時代にはクシャーナ朝を破って東方の最大領域をインダス川付近まで広げ、ローマ皇帝ウァレリアヌスを捕虜とした。しかし、7世紀半ばに二ハーヴァンドの戦いでイスラーム勢力(アラブ軍)に敗北し、滅亡へと向かった。
問5	答え 2 クリルタイ	モンゴル帝国では、ハンの選出や軍事遠征などの国家の重大事項を決定するために、一族の諸王や有力部族長が集まる最高意思決定機関が開催された。これをクリルタイと呼ぶ。第4代モンケ・ハンの死後には、この会議の合意を経ずにフビライが独自にハン位に就いたことで、帝国の一体性が揺らぐ契機となった。
問6	答え 3 オットー1世	東フランク王国のオットー1世は、マジャール人の侵入を撃退した功績などにより、962年にローマ教皇ヨハネス12世から帝冠を授けられた。これにより神聖ローマ帝国が事実上成立した。フランク王国の歴史においては、5世紀末のクローヴィスによるアタナシウス派への改宗、8世紀半ばのピピンによるカロリング朝の創始に続く、中世西ヨーロッパ世界の形成における重要な画期となった。
問7	答え 4 開封	唐の長安が政治的・計画的な都市であったのに対し、北宋の都である開封は、大運河と黄河を結ぶ水路交通の要衝に位置する商業都市として発展した。開封では、唐代までの坊市制(居住区と商業区を明確に分け、夜間の通行を禁じる制度)が崩壊し、自由な商業活動や夜間営業(夜市)が行われるなど、都市のあり方が大きく変化した。
問8	答え 1 ヴェネツィア	中世の地中海商業圏において、イタリア半島東側のアドリア海に面したこの港湾都市は、東地中海を経由する東方貿易(レヴァント貿易)の主導権を握った。ビザンツ帝国やイスラーム勢力と交易を行い、アジアから運ばれてきた香辛料や絹織物をヨーロッパ各地に供給することで莫大な富を蓄え、共和政のもとで繁栄を極めた。
問9	答え 1 イブン＝シーナー	イラン出身の医学者・哲学者であるイブン＝シーナー(ラテン名アヴィケンナ)は、ギリシア医学の成果とイスラーム世界での臨床経験を統合して『医学典範』を著した。この著作は12世紀以降にラテン語に翻訳され、中世から近世初期にかけてのヨーロッパの大学で医学の基本文献として重用された。
問10	答え 2 ジャックリーの乱	14世紀のフランスでは、百年戦争にともなう戦乱やペストの流行による人口減少、それに伴う領土の搾取強化(封建反動)に対する不満が高まっていた。1358年、フランス北部の農民たちが「ジャック(農民の蔑称)」を名乗って大規模な蜂起を起こした。この反乱は短期間で鎮圧されたが、中世封建社会の動揺を示す象徴的な事件となった。
問11	答え 1 タラス河畔の戦い	唐の存続期間(618年～907年)における出来事の年代順を整理すると、ウマイヤ朝の成立は661年、キエフ公国の建国は9世紀後半(882年頃)である。この中間に位置する751年に、唐の將軍高仙芝率いる軍隊とアッバース朝の軍隊が中央アジアのタラス河畔で衝突した。この戦いにより、唐の捕虜から製紙法がイスラーム世界に伝播することとなった。